

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

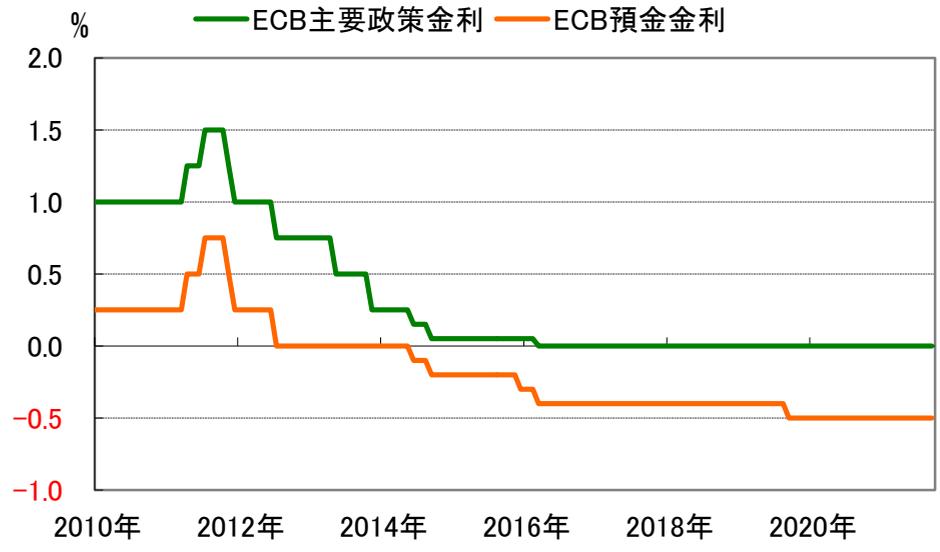
2021/9/10

りそなホールディングス 市場企画部

○概況

- ◆ パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)について、購入ペースのわずかな縮小を決定。政策金利は据え置き
 - ◆ ほぼ予想通りの結果であったが、一部にタカ派的な警戒をする向きもあったのか、欧州金利の低下が目立った
- ✓ 9月9日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、**中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置いた。**
 - ✓ **今回パンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)について、総額(1兆8500億ユーロ)を維持しつつ、第4四半期の買入について、従来の800億ユーロからわずかに減額する(市場予想600-700億ユーロ)と発表した。期間については22年3月末まで、必要ならばそれ以降まで継続する**とした。APP(資産買い入れプログラム)及びTLTRO-Ⅲ(条件付き長期リファイナンスオペ)の規模及び期間については維持された。
 - ✓ フォワードガイダンス(将来の金融政策方針)については、前回7月の理事会にて変更した「(1)インフレ率が予測期間(現在は21-23年)の終わりよりもかなり前に2%に達し、(2)残りの予測期間は持続的に2%に達すると予想するまで、(3)また基調的なインフレ率が中期的な2%の物価安定と一致するよう十分に進展していると判断するまで、現状ないし現状を下回るレベルで政策金利を維持する」との文言が据え置かれた。
 - ✓ また同時に発表された最新の経済予測では、21年の成長率見通しを大幅に引き上げた。物価見通しについても全予測期間で見通しを引き上げつつも、23年のインフレ見通しは1.5%と中期的な物価目標の2%には届かず、予測期間中の利上げは展望できない見通しに変化はない。
 - ✓ 今回のPEPPの減額について、ラガルド総裁はあくまでも政策の微調整であり、テーパリングではないと強調。終了方法等について、12月に包括的な議論を行うこととした。ほぼ予想通りの結果であったが、一部にタカ派的な警戒をする向きもあったのか、発表後は欧州金利の低下が目立った。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し (9月時点)】

	2021年	2022年	2023年
実質GDP成長率	+5.0	+4.6	+2.1
6月時点の見通し	+4.6	+4.7	+2.1
HICP(消費者物価)	+2.2	+1.7	+1.5
6月時点の見通し	+1.9	+1.5	+1.4

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。